

マリーンIBAの選定：選定方法の評価と保全への活用

佐藤真弓(バードライフ・インターナショナル)・山本 裕(日本野鳥の会)・葉山政治(日本野鳥の会)

IBA(重要野鳥生息地)は、「鳥類を指標とした重要な自然環境」を選定し、それらを国際的なネットワークとして、持続的な保全や管理を実現しようとするバードライフ・インターナショナルの事業で、日本では、パートナー団体である日本野鳥の会がその選定を行い、保全に取り組んでいます。マリーン IBA (Marine Important Bird Areas: 海の重要野鳥生息地)は、IBA のコンセプトを海洋にまで広げたもので、海洋における食物連鎖の上位に位置する海鳥を指標に生物多様性の高い海域を選定し、海洋と海鳥双方の保全に貢献することを目的としています。

日本野鳥の会とバードライフ・インターナショナルは、2010 年に海鳥研究者を交え、選定についての情報や意見交換を行うマリーン IBA のワークショップを開催し、国内のマリーン IBA の選定を開始しました。これまで 15 種の海鳥を指標に約 50 ヶ所の海域を日本のマリーン IBA として選出しています。環境省が進める「重要海域」の抽出に使われることが決定しているほか、洋上風力発電の開発計画の基礎資料として活用されることが検討されているなど、保全への活用に期待が高まっています。しかしながら、選出されたマリーン IBA は、選定基準・方法について専門家による評価が十分に行われていません。

本集会では、マリーン IBA の選定について、まず事業の概要とともに海外での選定事例や保全への活用例を紹介します。次いで国内での選定方法、結果について報告をし、選定方法についての問題点を取りあげた後、意見交換では、これらの問題点を中心に、改善方法について広く議論したいと考えています。マリーン IBA を海洋・海鳥の保全に役立てるため、本集会にて、海鳥の保全・研究に関わる多くのみなさまのご意見が頂ければ幸いです。ご参加をお待ちしております。

【プログラム】

1. マリーン IBA の概要 (10 分)
2. 海外における事例：選定と保全への活用 (15 分)
3. 国内におけるマリーン IBA の選定方法 (15 分)
4. 選定結果と問題点 (15 分)
5. 意見交換 (60 分)